

# 英語科学習指導案

日時 平成28年6月30日(木) 5校時  
会場 2年A組教室  
学級 2年A組(男6名 女9名 計15名)  
指導者 教諭 小野寺 晋太

1 教材名 My Project 4 「スキット作りを楽しもう」(Sunshine English Course 2 開隆堂)

## 2 単元について

### (1) 教材観

#### ①題材について

My Project は通常単元を「扇の要」のようにまとめたタスク活動となっている。それにより、4技能が自然に統合され、活用(=自分で習ったことを組み合わせる)できるようになる。既習事項を使い「まとめた出力」の活動をし、ことばを使用できるようにしていくことを目的としている。生徒の学習意欲を高めるためには、ゴールを最初に示すことが大切である。それにより、メタ認知力(自分はどこまで理解して、何を課題としているか)を高めることができる。通常単元を「点」として積み上げていくのではなく、My Project で、生徒が何をできればよいのかを頭に描き、具体的に各単元で評価規準と「Can-Do」が達成できているかどうかを確認し、My Project につなげていくことが大切である。1年生の My Project 3 で幅広く質問したり答えたりすることを学んだのを受けて、2年生1学期の My Project 4 ではスキット作りに発展させる。コミュニケーションでは、相手の話に関連する質問を臨機応変にできることが大事だが、だからと言って、相手に質問ばかりしていると相手は辟易としてしまう。そこで、日本語でもしているように、相手の言ったことを確認する、相づちを打つ、意見や感想を述べるなど、聞き手からも新しい情報を与え、interactive にすることが必要である。My Project ではそれらをまとめて練習し、習熟する。言うまでもなく、教師が英語を多用して授業を進める際も、また今後の言語活動を円滑にするためには、非常に重要な単元である。

#### ②言語材料について

My Project は通常単元をまとめたタスク活動となっているので、新しい言語材料は出てこない。しかし、コミュニケーションにおいては前述した通り、相手の言ったことを確認する、相づちを打つ、意見や感想を述べるなどすることで、会話がより interactive になり、内容に広がりが出てくる。1年生の My Project 3 や、2年生の Program1 から 3 においてそれらの表現を学んできたので、後述の「5 指導と評価の計画」にあるように、本単元の始めに確認と習熟を図り、スキット作りに生かせるように指導していきたい。

### (2) 生徒観

真面目に学習に取り組んでいる。教師が話す英語やCDから流れてくる英語を聞こうとする姿勢もよく、発問に対する反応もよい。また、英語を話す声のヴォリュームも高い。これは、小学校における美野マーク国際教育主事との外国語活動によって培われてきたコミュニケーション能力の素地がしっかりしていたことに加え、入学後もパターンプラクティス・ペア活動・グループ活動等、様々な形態の言語活動を取り入れ、英語を使用する機会を多く与えてきたことにより、英語を話すことへの興味・関心が高いことの証であると言える。しかし一方で、2年生になってから話す表現活動に自信が持てず、1年生に比べて消極的な生徒が

若干見受けられる。2年生の1学期は、過去形・未来形・現在形がすべて出そろう、文法事項がさらに複雑化してくる時期であること、語彙数の増加に伴い、1文1文が長くなってきていることなどが考えられる。また、同じ表現活動でも、書くことへの苦手意識や抵抗感が高い生徒は昨年度から引き続き多い。そこで、書く力を向上させるためには、文構成や語順の理解の促進が必要と感じ、書き取り練習・単語テストに加え、適語補充や語順整序専用の副教材にも取り組ませている。また、1学期は「日記」「夏休みの予定」など、過去形や未来形の題材が多く出てくるので、それらの題材を使った **Writing** のパフォーマンステストも行い書く力の向上を目指している。今後も英語の4技能「読む・聞く・話す・書く」をバランスよく指導すること、それぞれの生徒の得意分野を生かすこと、評価の際は特定技能に特化しないようにすることなどを意識しながら、達成感や成就感を得られるような授業を展開していきたい。

\*参考データ

中1 CAN-DO テスト (平成 28 年 1 月実施)	現 2 年生	小問正答率 72.9	(県平均 63.1)
領域別	聞くこと	95.0 (県 84.8)	外国語理解の能力 88.6 (県 79.7)
	読むこと	80.0 (県 72.9)	外国語表現の能力 45.3 (県 40.3)
	書くこと	59.2 (県 48.6)	言語文化の知識理解 65.5 (県 52.3)

NRT (平成 28 年 4 月実施)	現 2 年生	(全国 = 100 として)
聞くこと	108	話すこと 106
読むこと	114	書くこと 110

### (3) 指導観

My Project 4 のゴールは、**ペアでスキットを作り**発表することである。スキット作りには当然ながら表現力や語彙力が必要となるので、指導にあたってはまず、Basic Dialog や My Project 3 の復習を通して、質問や答え方の再定着を図りたい。それを踏まえ、コミュニケーションを円滑にするには何が必要かをクラスで確認したい。復習の時間をしっかりと確保したうえで、スキット作りに向けて様々なバリエーションを考えさせていく。特定の表現や決まりきった表現だけではなく、思い込みを捨てさせ様々なケースがあることに気づかせたい。実際のスキット作りでは、言葉は場面でしか意味を持たないので、どんな場面なのかを丁寧に考えさせたい。そこで、教科書に出て来る①場面、②登場人物、③話題を設定し、それが自然な状況かどうかをペアで確認させながら作成に取り組ませたい。スキット練習の際はその場面を想定し、実際に近い場所や状況で練習をさせる。発表に向けては自信を持って発表できるように、練習時間を十分に確保させたい。また、中間発表の場を設け、その様子をビデオカメラで撮影し、よりよい発表のためには何が必要かを共有し、発表のレベルアップにつなげたい。本番でも発表の様子を撮影し、中間発表の姿と対比させることで自分たちの変容を実感させたい。発表はあくまで手段なので、発表をして終わりという指導ではなく、発表によって「仲間のよいモデルからヒントを得る」、「学習意欲が喚起される」というプロセスまで高めたい。スキット作りや発表を「協働学習」にすることで、「気づき」が生まれ、**active learning** につながっていく。active learner を育てるには、「何をすればよいかわかる」「できそう」「できた」「よいことを学んだ」「もっとできるようになりたい」という心の動きを作り出す指導が大切であることを意識しながら指導にあたりたい。

(4) 住田町の研究とのかかわり

平成28年度 住田町教育研究所 研究テーマ
自立して生き抜く力を身に付け、他と協働してより豊かな人生や地域づくりを主体的に創造することのできる人材育成に関する研究

グローバル学習部会テーマ ～他者との協働～
<p style="text-align: center;"><b>【育成したい実践力】</b></p> <p><b>自立的活動力</b>・・・異文化や新たな言語に触れる活動を通して、仲間と共同しながら主体的に学ぶことのできる力</p> <p><b>人間関係形成力</b>・・・自らの思いを主体的に発信することと、他者の意志を理解するコミュニケーションの力</p> <p style="text-align: center;"><b>【特 徴】</b></p> <p>話し合いやスピーチ、プレゼンテーション、手紙やエッセイを書くことなど、体験型・発信型の言語活動を取り入れた、日本語と英語両言語による活動</p>

3 単元の目標

- (1) ペアでのスキット作りや練習に、よりよい発表にするための意見やアドバイスを出し合いながら取り組んでいる。
- (2) 相手の話した内容について、適切な質問や関連する意見を言いながら10文程度の対話を行うことができる。 < 英語 CAN-DO リストとの関連 話すこと (3) >

4 単元の評価規準

ア、コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ、外国語表現の能力	ウ、外国語理解の能力	エ、言語や文化についての知識・理解
ペアでのスキット作りや練習に、よりよい発表にするための意見やアドバイスを出し合いながら取り組んでいる。	相手の話した内容について、適切な質問や関連する意見を言いながら10文程度の対話を行うことができる。	/	/

## 5 指導と評価の計画

時間	○ねらい ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		
	○対話のつなぎ方を学ぶ。 ・Basic Dialog や My Project 3 の復習を通して、既習の質問と答えの習熟を図る。 ○コミュニケーションを円滑にする方法を確認する。 ・教科書を使い、意見や考えを出し合いながら確認する。		
2	○対話のバリエーションを考える。 ・対話の答えは1つではないことを念頭に考える。 ・対話の答えを選んだ理由、どんな場面か、どんな気持ちか、答えとして可能かどうかなどをクラスで考え、共有する。 ・実際の流れを考え、紹介したり、発表したりし合う。		
3	○ペアでスキットを作る。 ・教科書にあるスキットのモデルを見ながら、5W1Hの情報がどこに出てくるかチェックする。 ・場面、登場人物、話題などを考えペアで10文程度のスキットを作る。	ア(形)	活動の観察
4 本時	○発表に向けてスキットのレベルを上げる ・役になりきって練習をする。 ・ビデオで中間発表を録画し、どこがよかったか、どこを改善すべきかを出し合い、クラス全体でシェアリングする。	ア(形)	活動の観察
5	○ペアでスキットを発表する。 ・スキットを暗記して発表する。 ・ビデオで発表を録画し中間発表と対比させ、どこがよくなったか、今後どこを改善すればよりよい発表になるかを出し合い、クラス全体でシェアリングする。	イ(総)	スキット発表

(形) 形成的評価・・・行動観察、見取り（主に学習指導の途中段階で行う）

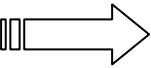
(総) 総括的評価・・・ペーパーテストやパフォーマンステスト、ポートフォリオ  
(主に学習指導の最後に行う)

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標と評価規準

観点	目標	A：十分に満足できる	B：おおむね満足できる	C：具体的な対応・手立て
関心意欲態度	ペアでのスキット作りや練習に、よりよい発表にするための意見やアドバイスを出し合いながら取り組んでいる。	ペアでのスキット作りや練習に、よりよい発表にするための意見やアドバイスを出し合いながら取り組んでいる。	ペアでのスキット作りや練習に、取り組んでいる。	アドバイスや助言を与えながら、スキット作りに取り組ませる。

(2) 本時の展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	○：指導上の留意点 ◎：評価
導入 3分	1、あいさつ  2、本時に取り組む ことの確認	・中間発表に向けての練習内容・進め方の確認する	○発表の様子をビデオに 撮ることを伝える。
<b>【学習課題】 スキットの発表に向けてレベルを上げる</b>			
展開 44分	3、ペアで練習  4、中間発表と シェアリング (進め方) 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク先生・テリーサ先生とともに、机間指導を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1ペアごとに発表させる</li> <li>・発表の様子をビデオに撮る</li> <li>・1ペア終わったごとに、撮った映像をすぐにスクリーンに流す。</li> <li>・映像を見て、よい点・改善点をペア→全体の順でシェアリングさせる (くり返す)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク先生、テリーサ先生から助言、アドバイスをいただく。</li> </ul>	<p>◎本時の評価場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○よりよい発表に向けて細かい部分（発音・表情など）まで指導をする</li> <li>○今できる範囲で最高のスキットを発表させる</li> <li>○以降の活動につなげられるよう、細かい部分（発音・表情など）まで共有させる</li> <li>○発表者にも自分たちの発表を見せ、メタ認知させる</li> </ul>
終末 3分	6、自己評価  7、あいさつ	・単元の評価カードに記入させる。	○記入させ、次時へのフィードバックに活用する

## 2年 My Project 4 スキット作りを楽しもう

ゴールの活動	ペアでスキットを作り発表することができる		
単元の目標	1	ペアでのスキット作りや練習に、よりよい発表にするための意見やアドバイスを出し合いながら取り組むことができる。	自己評価
	2	相手の話した内容について、適切な質問や関連する意見を言いながら10文程度の対話をする事ができる。	
時	<各時間の目標> ゴールに向けての活動	<学習の振り返り> できたこと・できなかったこと・改善点	目標の評価
1	○単元の学習内容を確認する ○対話のつなぎ方を学ぶ ○コミュニケーションを円滑にする方法を確認する。		
2	○対話のバリエーションを考える		
3	○ペアでスキットを考える		
4	○スキットの発表に向けてレベルを上げる		
5	○ペアでスキットを発表する		
A : 大変よかった    B : よかった    C : あまりよくなかった			

○中間発表で出された自分たちのよかった点・改善点 ( 月 日 )

--

○他のペアの発表で参考にしたいところ ( 月 日 )

--

○発表を終えての振り返り・次へ向けての改善点 ( 月 日 )

--

○他のペアの発表で今後参考にしたいところ ( 月 日 )

--



# 平成28年度 英語CAN-DOリスト

有住中学校 英語科

以下のリストは各学年、1年間英語の学習を続け「できるようになる (CAN-DO)」ことの目標です。各学期の期末テストはもちろん、授業でのパフォーマンステストや活動の様子を見ながら達成状況を評価していきます。

領域等		1年生到達目標(CAN DO)	達成状況
言語活動(4技能)	聞くこと	1) あいさつやクラスルームイングリッシュを聞いて、適切に応じることができる。 2) 簡単な対話文や物語文を聞いて、その意味や内容を理解することができる。	
	読むこと	1) 適切な発音・声量・スピードで教科書の本文を読むことができる。 2) 70 語程度の英文を1分で概要把握ができる。 3) 対話文・物語文の場面や内容を理解し、気持ちを込めて音読することができる。	
	話すこと	1) 教科書の対話文の単語を変えながらオリジナル文を作り、ペアやグループで発表できる。 2) 自分や他者について、10 文程度のまとまりのある英語でスピーチができる。	
	書くこと	1) 自分や他者などについて 10 文程度のつながりのある紹介文を書くことができる。 2) 適切な主語や動詞を用いて、状況や場面を説明する英文を書くことができる。	
言語材料等	音声	・基本的なフォニックス、語と語の連結・脱落による音の変化、聞き手に伝わる声量、英語らしい発音。	
	文字・語彙	・アルファベットの大きさ、小文字、符号、語の区切りなど、英語の表記法を正しく理解している。	
	文法事項	・現在形 (be 動詞・一般動詞)、現在進行形、過去形、助動詞、疑問詞	
	その他	・数の言い方、曜日、日付、天気、時刻、持ち主のたずね方、依頼・許可の表現、買い物の表現、指示・命令のしかた、代名詞	

領域等		2年生到達目標(CAN DO)	達成状況
言語活動(4技能)	聞くこと	1) あいさつやクラスルームイングリッシュを聞いて、適切に応じることができる。 2) まとまりのある内容の対話文や物語文を聞き、おおまかな情報を聞き取ることができる。 3) 相手が話す英語を聞いて、相手の考えや意図などを概ね理解することができる。	
	読むこと	1) 適切な発音・声量・スピードで教科書の本文を読むことができる。 2) 200 語程度の英文を4分程度で概要把握ができる。 3) 対話文・物語文の場面や内容を理解し、気持ちを込めて音読することができる。	
	話すこと	1) 教科書の対話文の単語を変えながらオリジナル文を作り、ペアやグループで発表できる。 2) 自分や他者について、5～10 文程度のまとまりのある英語でスピーチができる。 3) つなぎ言葉などを用い、身近な話題について 10 文程度のスキットを作り会話を続けることができる。 4) 既習事項を用い、コマーシャル台本を作り発表することができる。	
	書くこと	1) 自分の将来について6～8文程度で内容につながる英文を書くことができる。 2) 自分の予定や日記、賛成・反対意見などについて、気持ちや印象を含めて、20 語以上で内容につながる英文を書くことができる	
言語材料等	音声	・基本的なフォニックス、語と語の連結・脱落による音の変化、聞き手に伝わる声量、英語らしい発音。	
	文字・語彙	・2年生で学ぶ必修語句・熟語	
	文法事項	・1年生を踏まえ、過去進行形、未来形、助動詞、形容詞・副詞の比較変化、動名詞、受け身	
	その他	・電話、誘う・依頼、買い物、道案内、天気予報、インタビュー、連休の思い出	

領域等		3年生到達目標(CAN DO)	達成状況
言語活動(4技能)	聞くこと	1) あいさつやクラスルームイングリッシュを聞いて、適切に応じることができる。 2) まとまりのある内容の対話文や物語文を聞き、おおまかな情報を聞き取ることができる。 3) 相手が話す英語を聞いて、相手の考えや意図などを概ね理解することができる。	
	読むこと	1) 適切な発音・声量・スピードで教科書の本文を読むことができる。 2) 400語程度の英文を7分で概要把握ができる。 3) 対話文・物語文の場面や内容を理解し、気持ちを込めて音読することができる。	
	話すこと	1) 教科書の対話文の単語を変えながらオリジナル文を作り、ペアやグループで発表できる。 2) 説明文を物や絵、写真などを用いながら相手に伝えることができる。 3) 自分や他者、伝統文化などについて、10 文程度のまとまりのある英語でスピーチができる。	
	書くこと	2) 自分や他者について 10 文程度のつながりのある紹介文を書くことができる。 3) 適切な主語や動詞を用いて、状況や場面を説明する英文を書くことができる。	
言語材料等	音声	・基本的なフォニックス、語と語の連結・脱落による音の変化、聞き手に伝わる声量、英語らしい発音。	
	文字・語彙	・3年生で学ぶ必修語句・熟語	
	文法事項	・2年生を踏まえ、to 不定詞の用法、受け身、現在完了形、後置修飾、関係代名詞	
	その他	・旅行、食事、道案内、電話、インタビュー、アナウンス、名言、メール、ホームページ	

※ 達成状況は、A (概ね 90%以上)、B (概ね 70%以上)、C (概ね 50%以上)、D (50%未満) とし、年度末に評価する。